

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

# まちファン

## 13号

2009年10月30日



## 市民の「まち」

時代の大きな波が打ち寄せてきた。  
普段の生活では全く意識していない  
遠い遠い世界のできごとによって。  
しかし、それは確実に私たちと  
つながっている。  
そのことを、忘れてはいけないと思う。

ある時、ふと思ったことがある。  
「近い将来、私のような凡人では  
想像できない厳しい世界が広がる。  
だからこそ、より良い社会を創る努力を  
やめてはいけない」と。

不安になった時、歴史を振り返ってほしい。

どんな時代にも、「まち」があった。  
そこに力強く生き抜いてきた市民がいた。

きっと、私たちは自分の想像以上に  
大きな力をもっている。  
時には、ぶつかり、怒り、泣くことがあるかもしれない。  
でも、失敗を恐れず、自分たちを信じて、  
市民としての道を進んでいこう。  
きっと、その道の先には、  
笑顔があふれる「まち」が広がる。



## 目次

### 2009年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 公開審査会

公開審査会の流れ／結果表 プレゼンテーション	2
「まちづくりはじめの一步」コース	2
「まちづくり一歩前へ」コース	3
公開審査会を終えて・団体へのエール	4

### 2008年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 最終発表会・中間発表会

最終発表会・中間発表会の流れ プレゼンテーション	5
「まちづくり一歩前へ」コース	5
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	6
最終発表会・中間発表会を終えて	7
運営委員の紹介	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは／今後の予定	8

※上記、公開審査会、最終発表会・中間発表会ともに、  
株式会社四国銀行本店5階にて開催しました。

公開審査会の流れ

2009年7月26日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2009年度事業公開審査会」には、応募団体、一般合わせて90名が参加しました。

A 「まちづくりはじめの一歩」コース

1 審査



事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会の場で発表

2 団体の活動紹介



助成対象となった団体による事業内容の説明

「まちづくりはじめの一歩」コース結果発表(助成先1団体)

グループ名		申請額 (万円)	助成額 (万円)
1	高知ラブ・らぶ・ラブズツキュン☆	5	5
2	北山の原生林を考える会	5	—
助成額合計			5

B 「まちづくり一歩前へ」コース

1 プレゼンテーション



各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が各応募事業について(a)、(b)、(c)の3段階の判断をする ※(a)、(b)、(c)については下表参照

3 質疑



一次判断で(b)、(c)が多い事業への質疑応答

4 最終判断  
助成事業・金額の決定



各運営委員が、助成対象として推薦する事業を選ぶ。結果、過半数(5票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定

■「まちづくり一歩前へ」コース結果表(助成先団体5団体)

グループ名	一次判断			最終判断		
	(a) 活動企画内容を支持し、今回の助成が必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回の助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、助成趣旨にはなじみにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1 団塊バンド・サイコ		■■■■■■■■■		●●●	30	—
2 高知県フェニックス親の会	■■■■■	■■■■■		●●●●●●●●	30	30
3 チャイルドラインこうち開設準備会	■■■■■	■■■■■		●●●●●●●●	30	30
4 特定非営利活動法人 高知市子ども劇場	■■■	■■■■■■■		●●●●●●●●	30	30
5 わくわくワークるんだ商店街実行委員会	■■■■■■■	■		●●●●●●●●	30	30
6 特定非営利活動法人 高知市生涯学習支援センター「エンゼルハンド」	■■■	■■■■■		●●●●●●●●	30	30
7 こうちのたから音楽祭実行委員会	■	■■■■■■■		●	30	—
8 ワンダフルミーラクル		■■■■■■■	■	●●	30	—
助成額合計						150

A 「まちづくりはじめの一歩」コース

■プレゼンテーション■

活動テーマ

高知の伝統をもう一度見直し新商品開発を目指す

GROUP 1

高知ラブ・らぶ・ラブズツキュン☆



高知の特産品や名所をもっと多くの人に広め、高知の良さを知ってもらいたい。知ってもらうことで、多くの人が高知を訪れ、高知の経済効果を高めることもできる。さらなる市民の意欲をひき立て、地産地消を進めること。祭りをさらに盛り上げることにつなげ、全国の人に高知を浸透させる。自動車や車、電車からでは見えない細かい部分にまで、目を向けていきたい。

増田副運営委員長のコメント

この活動を展開するにあたって、かなりいろいろな人のサポートをしてもらいながら第一歩を踏み出してほしい。助成期間中に自分たちのめざすものをもう少し明確にして、活動を充実させていってほしい。

活動テーマ

北山の貴重な自然を未来に繋げるための学習の場にしよう

GROUP 2

北山の原生林を考える会

増田副運営委員長のコメント

地域に根差した活動や願いについては、時代が変わっても、後世に受け継いでいってもらいたいという思いが伝わり、理解はできるのだが、活動の助成というよりは、印刷の助成というふうに読み取れた。

## B 「まちづくり一歩前へ」コース

活動テーマ フルバンドのサウンドで市民の中に文化の香りを～

GROUP 1 団塊バンド・サイコ



今年度は、演奏活動はもちろん、音楽療法を行う。音楽療法などに携わる人との研修を交え、研修を受けた人たちと、リズム演奏を実践してみたい。演奏をすることにより、高齢者と孫との世代を超えたコミュニケーションができるのではないかと。現在、高知市にもアプローチしているところである。

活動テーマ チャイルドラインこうち「電話の受け手」ボランティア養成研修会

GROUP 3 チャイルドラインこうち開設準備会



チャイルドラインは、18歳までの子どもたちが、誰かと話したいときに無料でかけられる電話のこと。高知にはまだできていない。子どもたちの声を聞く電話の受け手を養成し、子どもの声もしっかりと聞いてあげられるための研修を行いたい。高知の子どもたちの声を聞くことができれば、今以上に子どもたちの気持ちの理解、成長の手助けができると思う。

活動テーマ わくわくワークるんだ商店街

GROUP 5 わくわくワークるんだ商店街実行委員会



子どもたちに商店街を中心とした実際の職業、商いを体験してもらい、マナーやコミュニケーション、社会性を身につけてもらう。前回、定員150名の枠に約500名の応募があったり、他団体、企業から次回参加希望の問い合わせがあったりと、大反響であった。改善点として「①アンケート結果の反映②商店街全体の参加③エリアの拡大④もっと商店街の泥臭さなどをアピールする」があがっている。

活動テーマ 人と人を音楽でつなぐゆるやかな地域ネットワークづくり

GROUP 7 こうちのたから音楽祭実行委員会



来年2月に音楽祭を開催。1つの会場で演奏するのではなく、会場に来られなかった人のために、地域出前コンサートを行う。それぞれのテーマに合わせて、①高齢者②若者③障害者④地域の小学校⑤NPO、ボランティア、任意団体の人たちが主催する5つの会場を予定。一緒にコンサートを開催していく中で、ネットワークをつついでいこうと考えている。

## プレゼンテーション

活動テーマ 障がい児(者)の訓練会の事を地域に広めよう

GROUP 2 高知県フェニックス親の会



支援学校、保育園、作業所等に通う障がい児(者)に機能回復訓練を広めるとともに、活動の知名度を上げ、技術を学びたい人材と集まりにくいボランティアを確保し、安心して生活が送れることが目的。問題点は、訓練を必要としている人に対して、訓練指導者とボランティアの数が不足している。訓練士およびボランティアの確保と育成、毎年行われる各キャンプで県外より指導講師を招致する資金が必要。

活動テーマ 感じるつながる遊びの時間 part4 (高知城で忍者修行の巻、および親子版ワークショップ)

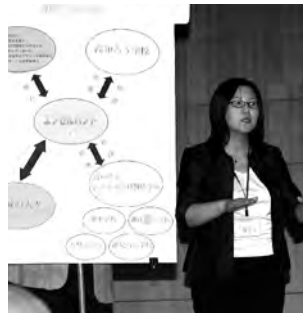
GROUP 4 特定非営利活動法人 高知市子ども劇場



「感じるつながる遊びの時間」という事業を始めて4年目になる。演劇の手法などを使った表現活動を通じて、子どもたちの五感を刺激し感じる心を育て、コミュニケーション力を育てていく。講師にアフタフバーバンを招き、高知城で忍者修行を考えている。子どもから大人までともに遊び合い、関わり合うもので、自分らしく表現できるようになること、豊かな地域社会をつくり出すことを目的としている。

活動テーマ 「できる」喜びが未来につながる～聴覚障害児の社会参加を目指して～

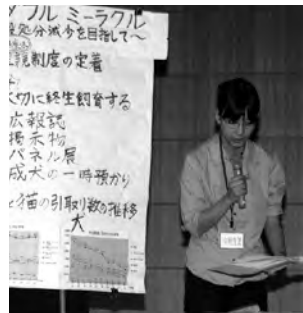
GROUP 6 特定非営利活動法人 高知県生涯学習支援センター「エンゼルハンド」



エンゼルハンドは、パソコン講師と聴覚に障害のある手話講師が、講話や手話でコミュニケーションを図りながら学習を進めている。今年10月で開講1周年を迎え、その記念行事として、早瀬憲太郎氏を招き、講演会を開きたい。保護者、地域の人たちを対象にさまざまな企画を考え、子どもたちが積極的に参加できるように、今後はパソコン、手話講師を増やして、教室を広げていきたい。

活動テーマ 殺さないまちづくり～素敵な出会いのお手伝い～

GROUP 8 ワンダフルミーラクル



動物の殺処分数の減少が目標。高知県では毎年6,000頭の猫と2,000頭の犬が殺処分されている。活動として①広報誌の作成と、②県の掲示板やさまざまな場所に、センターで収容されている動物を写真入りで紹介する。子犬の譲渡率は高いが成犬の譲渡はないので、成犬の一次預かりも考えている。殺処分の現状を広め、自分たちに何ができるかを考えるきっかけづくりとしたい。

## C 「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

●応募なし

## 二〇〇九年度ソフトコース 公開審査会を終えて

運営委員長  
卯月 盛夫  
(早稲田大学教授)

「まちづくり」一步前へ。コースの助成は三回までです。実際には、なかなか計画的にはいかないかもしれませんが、できるだけ「一年目で何をねらい、二年目はこうしたい」といった内容の展開を組み立てて、活動の明確な目標を発表してほしいと思います。われわれ運営委員は、初回と二回目、三回目とは、かなり評価が違っていますね。その辺りも、どうぞご理解ください。

高知の人が助け合って、生き生きと活動する。その結果、高知のまちが美しい景観になったり、生活が豊かになったりする。この長い道筋を経て今に至っています。したがって、問題の入り口に立った時、どちらの方向に向いていくのかという視座がしっかりあってこそ、「私たちは、そういうまちのビジョンについて応援し、活動します」と言うことが可能になります。目的と方向性が非常に大切なことです。もし計画どおりにいかなかった時は、その理由を明らかにし、次なる打開策をたてる。それがまさにきちっとした計画と言いましようか、市民の皆さんのお金を、行政、企業では使えないような使い方です。使っていくルールなんだと思います。

今回、「ワンダフルミーラクル」は残念な結果となりましたが、プレゼンテーション、質疑応答、全く遜色（そんなしよく）がありませんでした。われわれ運営委員がどのような質問をするのか、事前に分からないのに、大学生としてきちっと受け答えができていた。「本当にやれますか？」という投げかけにも、はっきり「やります」と答えた。その意気込みには大変感心しました。社会の中でこれまでなかった新しいシステムを作っていくには、いろいろな困難を乗り越えなければならぬ。その第一歩が、この審査結果だったというふうにご理解いただきたい。がっかりして、「この活動をもうやらない」ということにはならないことを願いますが、方法については、更にいっそう熟慮し、ぜひ、またチャレンジしてほしいと思います。



## 運営委員より ～助成先とならなかった団体へのエール～

### 「団塊バンド・サイコ」

- 地域から求められて演奏に行くというスタンスを、ずっと大切にしてほしい。
- 音楽療法という分野は、これからの社会にとって大切なこと。今後も演奏をする側、演奏を聴く側、両方が楽しんでいてもらいたい。



### 「こうちのたから音楽祭実行委員会」

- 地域に密着したコミュニティ再生のきっかけづくりという思いに同感することができた。



### 「ワンダフルミーラクル」

- 考え方などは、若者の視点、いわゆる社会に対する啓発の思いを込めていて、素晴らしい。
- ファンに応募し、高校生も含めての発表に拍手を送りたい。ぜひ、その気持ちを持ち続けて、学生だけでなく、社会人との関わりをもつと良い。社会やサポートセンターの人たちとつながって活動をし、さらなるステップで挑戦してほしい。



### その他の感想

- 目的と活動の混在した発表が多く、活動そのものが目的になっていて、「まちづくり」のファンとしては、非常に心配だ。ここにお金があるから出てきたということのないよう、まちづくりファンドの場を発展させてほしい。
- 1年、2年、3年と、それぞれハードルが上がってくる中で、助成期間中に次の体力をつけ、自力で活動ができるようになっていくことが大事。また、助成金がないからといって、事業縮小を考えるのではなく、いろいろな協力を得て、活動を盛り上げてほしい。まちづくりの中で、皆さんがアーティストなのか、デザイナーなのかということの違いは大きい。アーティストというのは自己欲求である。自分たちが良ければ、それが元氣だという発想。そうではなくて、やはりいろいろな方を巻き込んでいくデザイナーという考え方でいくことが、力をつけていくことにつながる。助成は3年で終わるが、たとえ1年であっても元気になる団体はある。最終的には人であり、視覚、聴覚など、感覚の部分を中心に頑張ってもらいたい。





## 1 プレゼンテーション

助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表

- ソフトコース:3分間
- ハードコース:5分間



## 2 意見交流

運営委員や参加者からの感想、また質疑に対し、助成先団体が応答

# 卒業証書授与



市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援する「まちづくり一歩前へ」コースは、同一の事業内容に対して3回まで助成を受けることができます。「大津地区地域リハビリテーション応援団」は2006～2008年度と連続助成をうけ、今年、公益信託高知市まちづくりファンドを卒業しました。今後の更なるご活躍を期待しています。



# 最終発表会

## B 「まちづくり一歩前へ」コース

## ● プレゼンテーション ●

### 活動テーマ

#### GROUP ①

フルバンドのサウンドで市民の中に文化の香りを～  
団塊バンド「サイコ」



1年を経過して、登録メンバーも28名になり、フルバンドに近い編成になった。演奏は1年間でほぼ30回。3年後の大きな目標として、音楽療法を取り入れた活動をしたい。7月に音楽療法士を交えて、地元の40～50人くらいの人たちと認知症予防にかかわるオリエンテーションを開催した。これからの目標として、子どもを対象としたアニメソング等、レパートリーを少しずつ追加していく。

#### VOICE

- ・メンバーも増えて、活発な活動ができて楽しそうでした！
- ・多方面での活躍を耳にしています。高知のまちを明るくしてください。
- ・施設訪問等、高齢者へのレクリエーションの取り組みが良いと感じました。

### 活動テーマ

#### GROUP ②

わくわくワークるんだ商店街  
わくわくワークるんだ商店街実行委員会



2008年11月、小学校4年生から6年生を対象とした職業体験イベント「わくわくワークるんだ商店街」を開催。3回目を迎え、今までで一番多い24企業が参加。今年から小学生ジュニアバイザーがイベントの企画・運営に参加し、出店企業への説明や、イベント当日の司会などを行った。商店街を世代間の交流の場とし、多くの人々が集まって、楽しいことができるような活動をこれからも続けていきたい。

#### VOICE

- ・素晴らしい取り組みです。ずっと続けてください。
- ・子どもたちが委員に参加していて、驚き&Goodアイデア！
- ・ビデオを見て、活発な活動が手に取るように分かりました。

### 活動テーマ

#### GROUP ③

健常者と障害者がふれあういきいきまちづくり  
船岡団地花いっぱい会



今年は水道を引くことにより、昨年よりもたくさん野菜を植えることができました。野菜の収穫もでき始め、皆さんと触れ合いながらできる環境美化にも役立っている。今後は、皆さんと協力しながらいろいろな交流を広げ、引きこもりを完全になくしていくことに力を入れていきたい。また、多くの人に声掛けをして、若い人にもたくさん入ってもらい、一生懸命頑張っていきたいと思っている。

#### VOICE

- ・地道な活動に拍手を送りたいです。今後がんばってください。
- ・まちが花いっぱいになると、とてもウキウキしいと思います。
- ・自然の力は凄いですよね。若い人も巻き込んで、続けていってほしいです。

### 活動テーマ

#### GROUP ④

地域リハビリテーションサポーター養成講座  
大津地区地域リハビリテーション応援団



7月に開講式を行い、一般8名、中学生10名が受講した。介護での負担のかからない起こし方、車いすの使い方など、実践を交えて教えてもらった。救急救命講習を行い、AEDの使い方を学んだり、在宅サービス提供現場、特別養護老人ホームグランボヌールでの実習も行った。実習では指導者と触れ合うことでいろいろなことを知り、自分たちの生活では気付かなかったことを学んでくれたと思う。

#### VOICE

- ・子どもたちと高齢者の支え合いがある良い活動に関心させられました。
- ・難しいこともあると思うが、受講したら終了でなく、幅広く活躍してほしいです。

※事業期間外、助成対象外による返戻金……97,788円

### 活動テーマ

#### GROUP ⑤

父親が主体となる子育てイベントを通じての親子・地域の絆づくり

#### こうちパパ楽会



活動5年目の目標として、1カ月に1回くらいのペースで父と子だけではなく、母親も含め親子が楽しめるイベントを行った。6月に、今まで参加してくれた親子、お世話になった講師、企業、病院の先生などと話し合いをした。イベント情報を事務局が収集して、それをHPや高知新聞「K+」で紹介した。この1年でネットワークを広げることができた。今後は、情報の収集と発信をしていきたい。

#### VOICE

- ・参加メンバーが世代交代して、広がればいいですね。
- ・すばらしいですね！より活発な活動、子育て支援を頑張ってください。

※事業費節約による返戻金……61,112円

### 活動テーマ

#### GROUP ⑥

華のあるまち・高知～フォトモザイク知っちゅう？～

#### 高知女子大学フォトモザイクプロジェクト実行委員会



商店街の賑わいに貢献したい、高知の魅力をアピールしたいという目的で活動。A3サイズの作品から帯屋町のつり看板に至る大きなサイズまで、全30作品を制作した。2009年2月から、中心商店街での巡回展示を開始。1カ月で3カ所を巡回し、3月には土佐のおきやくに参加。大学生がまちのイベントに足を運ぶきっかけをつくり、大学生の意見をまちへ伝えることができた。

#### VOICE

- ・得られた経験を、今後の人生に活かしてください。
- ・活動終了とのことですが、ぜひこれからも続けてほしいです。

※事業内容縮小による返戻金……136,665円

### 活動テーマ

#### GROUP ⑦

障がい児（者）の訓練会の事を地域に広めよう

#### 高知県フェニックス親の会



高知療育キャンプでは1日に3回の集中訓練を行っている。その他にもクッキー作りを開催し、親子連れやボランティアの方など47名の参加があつて、大変好評だった。家に帰っても訓練ができるよう、指導も行っている。広報することで多くの方が訓練を必要としていることが分かった。しかし、訓練を指導する人やボランティアの不足が問題。今後はもっと各機関に働き掛けをしていきたい。

#### VOICE

- ・障がいのある人たちと、その家族、ボランティアさんをつなぐ役割をもっと広げてほしいです。重要な活動だと思います。頑張ってください。
- ・みんなのバリアフリーをめざして頑張ってください。

### 活動テーマ

#### GROUP ⑧

高知の同期100人出来るかな？～若手社会人をリンクしよう～

#### RinK



1月に高知若者意見交換会を開催。5月に株式会社トビムシの牧大介さんを招き、若手社会人向け勉強会を開催。7月に安藤副市長を招き、高知を元気にする若者座談会を開催。活動を通じて、若者に対する気づきの提供、職場や所属を超えた若者同士の交流の場の提供、学びの場の提供ができた。NPOで若者部会を立ち上げて継続していく。勉強会の実施といろいろな場を設けることを考えている。

#### VOICE

- ・形が見えにくい活動で、やっと一歩目が踏み出せた感じですね。方向性も見えかけているようで、今後の活動にエールを送ります。

※事業内容縮小による返戻金……45,500円

## 中間発表会

### 「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース ● プレゼンテーション ●

### 活動テーマ

#### GROUP ①

夢をカタチに！ホテルが飛び、魚も生息できる本宮川をめざして！

#### 本宮川の水辺と蜩の会



敷地に1分間で800リットル水が出るポンプを据えて川に流している。今年も2回ほど水がなくなったが、ポンプを使って、魚が助かるくらいの水が来ることを確認した。当初、計画としては、水を流すだけだったが、現在、噴水を作っている。噴水で温度も下がり、打ち水効果となっている。それと同時に、今まで住民はあまり川に入らなかったが、噴水を設置してから川に子どもが戻ってきた。しかし、子どもは遊ぶが、日陰がないので、老人はあまりにも暑くて立ち止まれないという欠点が出てきた。現在、話し合い中だが、できればテントなどを設置して、お年寄りも休めるような場所を作りたいと思っている。

- Q この事業は工事としては完了したということか？これを使って、来年3月までのプログラムも考えているのか。
- A 「魚を助ける」ことについての事業は完了した。事業としてお金を使うのは終わったが、お年寄りの方が涼めるようなところをいくつか作りたい。
- Q 周辺の地域の人たちからはどのように言われているか。
- A 「何故あるのか？」という意見が多いと思う。反対に「おもしろい」という意見もある。川にこんなものがあるということ自体、不思議だと思う。しかし、子どもたちが遊ぶことにより、「川で子どもが遊んでいる、楽しいね」というお母さんたちもいる。
- Q 敷地内に建ててあるのは、意見箱と募金箱か。意見や募金は集まっているのか。
- A 敷地の中で入りづらいが、一応そういう考え。意見箱は「いつ水が止まった」という記録用になる。募金箱は微妙である。電気代だけで年間最低6万円が必要。太陽光発電で回したらどうかという意見も出ている。

## 二〇〇八年度 ソフトコース最終発表会。 ハードコース中間発表会を終えて

運営委員長 卯月 盛夫  
(早稲田大学教授)

ハードコースは、行政の治水計画という問題の中で、このすばらしい提案を実現するために、行政とのやりとりが相当あったということ聞いています。河川や道路というものは、公共の都市計画の最たるもので、行政として「安全を第一に考えるのはやむを得ないのです」が、安全ラインのギリギリの設定で、「本宮川の水辺と蜚の会が河川を少し市民寄りに戻した。そのプロセスは、とても評価できるものだと思います。河川に噴水ができて、その後、高齢者の憩いの空間や、子どもたちの集まる場所として活用され、ソフトな活動のランクが更にながっていくといいですね。

ソフトコースの八事業については、「社会的サービスの提供者と受益者の観点」から、次のように分類整理してみました。  
①自らと同じような問題を抱えている人たちと、共通の問題として解決していく

「こうちババ楽会」はイベントを通じて輪を広げていったという成果を評価します。「RINK」は学生時代と、社会の一員になってから、三年、五年と経つ中で感じた社会のギャップに、目標は明確ではないけれど、問題発見の共有化から問題提起をしたというエネルギーを感じました。

②自分たちの問題を地域の問題としてとらえ、困っている人たちとの共生をめざす

「船岡団地花いっぱい会」「大津地区地域リハビリテーション応援団」「高知県フェニックス親の会」は特定の地域で濃厚な助け合いの強いコミュニティの構築を模索し、みんなが幸せになること、公共のサービスが行き届かないところをお互いに助け合うということをめざしています。

③組織や地域の衰退に危機感を感じ、それを乗り越えるために違ったものが結びつく



「わくわくワークするんだ商店街実行委員会」は商店街の普通のお客さんとは異なる子どもたちが商店街活動に参加し、最終的にはお土産を買ったり、お母さん、お父さんを連れてきたりするという副次効果が非常に面白いのです。  
④自分たちのやりたいことを趣味では終わらせない

「団塊バンド」「サイコ」「高知女子大学フォトモザイクプロジェクト実行委員会」は音楽や作品を制作することが好きなだけけれど、その事を通じて誰かに喜んでほしい、人と人をつなぐことに役立てたら嬉しいという気持ちから始まっている活動です。

高知のフアンドは市民社会を模索・構築するような試みとして位置付けられていて、毎年、層が着実に厚くなっていきます。これら四つの分類のグループは混在していて、それぞれのカテゴリーがリネージュすると、またどんどん違った分類に発展していくことでしょう。

今、自分たちが置かれている活動がどの分類にあって、他にどういうまわりの活動があるのか、そして、どこと結びつくことにより新たな展開に進んで行けるのか。それらを考える際に参考としていただけたらと思います。

## 運営委員紹介



運営委員長  
卯月 盛夫  
(早稲田大学教授)

今回「まちづくり大きな一歩コース」の応募がなかったので、大変残念でした。潜在的にはニーズがあると思うので、応募をもっと増やすための工夫をしたいと思っています。また高知では、高校生や大学生からユニークな提案が多いので、一般部門と少し内容や審査方法を変えて、もっとおもしろく、楽しくしたいと思います。



副運営委員長  
増田 和剛  
(高知中・高等学校教諭)

まちづくり活動は、一人の思いから始まります。その思いを人に伝えることで共感する仲間が生まれます。そして、この広がりが人を通じてネットワークとなり、さまざまな活動とリンクしていく瞬間だと思います。まさに、点が線となり、面となる、この関係こそ、まちづくり活動の基本です。



運営委員  
産田 節雄  
(元高知市都市整備部長)

今回の審査会全体を通して、「まちづくりとは何か」という素朴な疑問をもちました。発表の方法として、活動の内容だけでなく、「高知市のまちづくりのこの分野に貢献できる」などの説明があったら分かりやすいと思いました。



運営委員  
川崎 敬子  
(グラフィックデザイナー)

第一歩を踏み出そうとしている情熱あふれる団体、日々の充実した活動をますます拡大しようとしている団体など、高知のまちづくりを支えている多くの人の気持ちにふれて心強く思いました。まちづくりファンドが効果的に活かされるよう私も学んでいきたいと思っています。



運営委員  
四宮 成晴  
(四宮計画事務所)

わがまちを憂い、わがまちをおもい、わがまちを元気にしたくしてたくて、熱いおもいを重ね、いろいろな角度からさまざまな手法をもって、アピールしてくる応募者の方々に毎回、心が震えます。“協働あるまちづくり”への研鑽を忘れずに、応募者の気持ちを真摯に受けとめていきたいと思っています。



運営委員  
新藤 こずえ  
(高知女子大学助教)

公開審査会のプレゼンテーションでは、自分たちの住む地域をもっとステキにしたい!という思いが伝わってきました。まちづくりファンドはその思いを実現するための貴重な財源。助成金を交付された団体がどのような成果を生み出すのか、良い報告を期待しています。



運営委員  
堀 洋子  
(社)高知県建築士会)

閉息感のある今、弱い立場にいる子どもたちや障害のある方たちへのサポートによるまちづくりの応募が多く、心暖まる日でした。ファンドの助成が手助けになれば幸いです。ファンドへの応募も広範囲の活動が多く、まちづくりの原点でもある地域密着型の応募がなく、心残りでした。



運営委員  
宮地 貴嗣  
(ラ・ヴィータ 宮地電機株)

「まちづくり一歩前へ」コースは、申請8件中5件の助成となりました。高知市民の皆さんからいただいた税金を使って行う事業として価値があるかを審査の基準に置きました。主催者からの視点ではなく、一般市民の皆さんから見て、事業を行うことで、高知市がどのように良くなるかが重要です。



運営委員  
森本 智香  
(えほんの店「ココロ・サン」)

いつもにも増して、「まちづくりとは何ぞや」ということを深く考えさせられた審査会でした。「まちづくり」という答えのない問いに、果敢にも毎年たくさんの方が挑戦しています。その挑戦は、まちの一部である個人のあり方を浮き彫りにするものでもあります。その勇氣に拍手を送ると同時に、私自身が考えるチャンスにいただいたことに感謝しています。



運営委員  
山崎 三郎  
(高知県自然観察指導員)

これまでの自身の研究活動をもとに、森林・里山の樹木や野生動物、昆虫など高知市の身近な自然環境に目を向け、私たちの生活のいのちを守っていく活動に参加し、応援していきたいと思っています。そして、私たちの生きている地球環境をしっかり原点に据えた、愛とやさしさと夢のあるまちづくりに期待します。

# ■ 公益信託「高知市まちづくりファンド」とは ■

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。

**「まちづくりはじめの一步」コース**  
 まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

**助成金額** 上限5万円

**審査方法** 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

**「まちづくり一歩前へ」コース**  
 市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

**助成金額** 活動事業費の $\frac{1}{3}$ 以内で、上限30万円

**審査方法** 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

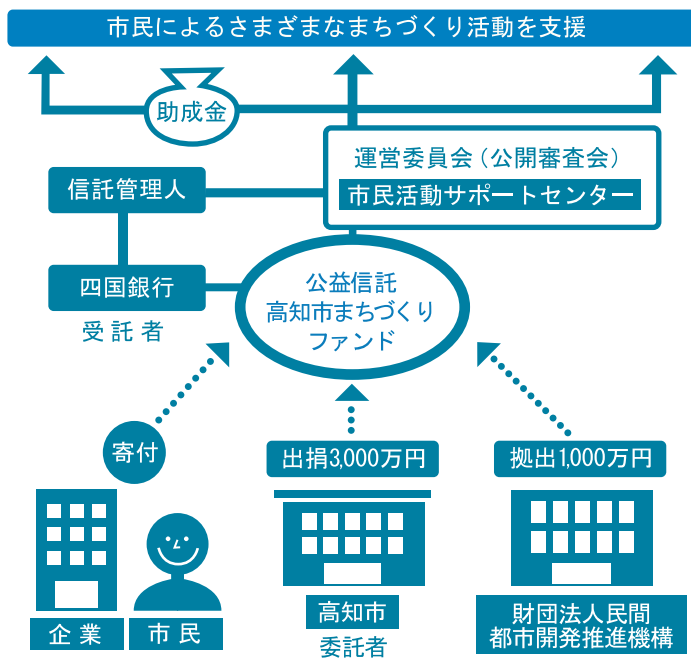
お問い合わせ先: 高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

**「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース**  
 高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうために行うまちづくり整備事業を支援します。

**助成金額** 上限300万円(助成率100%)

**審査方法** 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表をしていただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先: 株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2226



**四国銀行コメント** 株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていこうためのお手伝いができるよう努めていきます。

**高知市市民活動サポートセンターコメント**

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

## まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に生かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

**株式会社 四国銀行**  
 お客さまサポート部 信託担当  
 〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1  
 電話: 088-871-2226(直通)

## 高知市市民活動サポートセンター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

**今後のまちづくりファンド(予定)**

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

「まちづくりはじめの一步」「まちづくり一歩前へ」コース	「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース
<b>2009年度事業</b>	<b>2008年度事業</b>
中間発表会	最終発表会
最終活動報告書の提出期限	完了検査
最終発表会	
2010年1月30日(土)	2010年1月30日(土)
7月5日(月)	2月
7月24日(土)	

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階  
 TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665  
 E-mail: npokochi@siminkaigi.com 【URL】 http://www.kochi-saposen.net/